



楽学交祭（らくがくこうさい）

2月8日（土）に松が丘小学校で楽学交祭が開かれました。楽学交祭は松が丘小学校の6年生が取り組んでいる松が丘プロジェクトの一環です。楽学交祭はもともと1年前の児童会選挙での児童長の選挙公約でした。みんなで交流できるお祭りを実現すると選挙公約で打ち出し、当選後、児童会で祭りを計画し、先生と相談する中で「楽しく学び、学びを交流できる祭りを」ということで“楽学交祭”がうまれました。



松が丘小では校内研究が「体育科」に変わった4年前から講師先生を招聘せず、研推が中心となって自分たちの頭で考え、対話を大切にした校内研に変化してきました。それは、自分の頭で考え、対話を重ねながら問題を解決していける子になってほしいという願いからです。そうした試みが昨年度の6年生が5年生の時から取組始めたマット運動の「シンクロマット」（いろいろなレベルの子どもが一つのゴールに向かって自分を高め一つの作品を作り上げる）でめざす方向性が見える形になってきました。体育の授業だけでなく、特活を含め教科学習の中でも子ども同士の対話を大切に、教師が無意識のうちにファシリテーターの役割を果たす場が増えたように思います。特に特活では、子どもたちが様々な企画を打ち上げてきますが「信じて 任せて 支える」というスタンスで子どもたちを支援しています。



校内研究との融合

◎学校のグランドデザインづくり（保護者・地域と共有）
児童の実態を出発点に、学校教育目標「共に育つ学校」に迫るために、
①学びに向かうための力 ②主体性 ③協働性 ④道徳性
⑤思考・判断・表現力 ⑥情報活用能力 ⑦生活向上力の7つの観点から検討を行う。

「何ができるようになるか」
「何を学ぶか」
「どのように学ぶか」
「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」
「何が身についたか」
「実施するために何が必要か」

校内研究との融合

◎カリキュラム・マネジメント
「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して

夏季休業中に**学年経営戦略会議**を実施（校長・教頭・学年団・研推長）
各学年のゴールを設定し、子どもたちに、1年間で身につけたい力を各教科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事等においてどのようにアプロードしていくのか検討を行う。

↓

「松が丘サミット」・「楽学交祭」の開催へ

そして、今年度から校内研究の中に学校の在り方を考えるという場が持たれました。楽学交祭も児童の思いを実現させるだけでなく、子どもを育てる仕組として位置づけられています。楽学交祭では、地域の方の作品を展示するスペースを設けたり、

まちづくり協議会さんが「松っ子教室」を紹介するスペースやお茶菓子とお抹茶が頂けるお茶体験のコーナーを設けていただいたりするなど、子どもも大人も楽しめるスペースとなっていました。今後子どもと先生と保護者と地域の方が対話を重ねることによって面白い企画が生まれ、実現されていくのが楽しみです。

松が丘小の研究推進が始めた「学校のグランドデザインを考える」というのがこれからの校内研究の流れになってもいいのかなと思います。そのグランドデザインを子ども&教師&保護者&地域で考えることができたら、本当の未来の学校ができていくような気がします。それがコミュニティ・スク

ールなんだと思います。（文責 北本）

